

# 年金シニアプラン総合研究機構の今後の事業運営ビジョンの概要

## 1.はじめに

## 2.ビジョンの計画期間

令和2年度から8年間（評議員任期2期に相当）

## 3.当機構の果たすべき役割と方向

- (1)年金制度、年金資金運用及び年金生活に関する非営利の専門研究機関として、最も権威ある研究機関としての地位を確立することを目指す
- (2)年金制度に関する正しい知識の普及や公的・私的年金の利活用の推進に努める
- (3)各国の年金政策の動向等を集積する。高齢化先進国・低金利下の年金政策等の我が国の情報を世界に発信する。
- (4)年金分野の研究を活性化し、向上を図っていくための環境づくりを進めていく。
- (5)年金ライフプランセミナー事業について、ライフプランへの注目やDCの普及、年金基金の状況変化等の環境変化に対応しつつ一層の充実を図っていく。

## 4.機構の事業展開の方向

### (1)年金研究事業

- ・制度に関する骨太な提言につながる研究のほか、ESG・サステナビリティや2025年問題と資産活用等のテーマに先進的に取り組んでいく
- ・機構内外の研究者による総合的な研究を推進
- ・「サラリーマンの生きがい」等定期的な実態調査の継続
- ・特任研究員制度の活用も含めた研究スタッフの充実

### (2)研究成果の普及及び年金研究の振興

- ・「年金と経済」「年金研究」の刊行。一般向記事の充実
- ・フォーラムやセミクロズドの研究会の開催
- ・日本年金学会の運営支援。山口新一郎賞の実施

### (3)年金ライフプラン研修事業

- ・当機構主催セミナーの運営改善・参加企業の拡大を図るとともに、企業主催研修への運営支援に注力
- ・DCの拡大への対応や若者向け資産形成教育の確立あるいは受給者世代向け教育等も開発

## 5.法人運営

### (1)発信力の強化

- ・「プロ」「一般」両方に向けた発信の強化

### (2)賛助会員の確保

### (3)業務の見直し

- ・収入確保対策と費用の見直し
- ・よりよい職場づくり

## 6.運営費用の確保方策

### (1)特定費用準備資金等の活用

- ・前期同様特定費用準備資金を設けて計画的に資金確保
- ・理事会評議員会の承認を得て公益目的保有財産を活用

### (2)資産の運用

- ・当分の間、前期に策定したポートフォリオに基づき運用

## 7.ビジョンの見直し

### (1)中間見直し

- ・本ビジョンは、令和6年度の予算事業計画の策定に合わせて中間見直しを行う。

### (2)事業規模についての検討

- ・中間見直しに当たっては、中間見直しまでの期間の資産運用成績等も踏まえ、各界からの寄付財産を最も有効に活用するという観点から、当機構の事業規模について研究等の事業の意義及び持続可能性の両面からの評価・見直しを行うものとする。